

遠野人

★筆者 荒田 昌典 まさのり

遠野文化研究センター研究員。1952年、遠野市一日市町生まれ。遠野市史編さん調査研究員や遠野文化友の会会長として活動しながら、遠野の文化発信に努める。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。

今回は、庶民の娯楽(芝居小屋と映画館)についてです。



多賀座

明治41年(1908)6月、遠野で初めての芝居小屋が、砂場町(現・新町)の「多賀座」、新屋敷町(現・宮本眼科向い辺り)の「吉野座」の二カ所に開設されました。どちらも地方を興行して

回る旅芸人の一座が芝居や踊り、民謡、講談などを上演し、多くの方が詰めかけて楽しんだようです。

当時の様子が『遠野町古跡残影』(平成4年刊行)に次のように紹介されています。「遠野には古くから芝居や遊芸が盛んで、二つの劇場があった。多賀座と吉野座で、開演の当日は、人力車に出演者の名前を染め抜いたのぼり旗を立て、角太鼓をひざに置き、ダダンダと打ち鳴らし、街路の中央を流して走ったものだ」。

多賀座の収容人数は800人もあり、地元の演芸会や講演会にも利用されました。大正12年(1923)5月、上閉伊郡内の80歳以上の高齢者549名を招待して敬老会を多賀座で開催。大正14年7月には遠野初のラジオ試聴会が吉野座で開催されたという記録があります。

昭和に入ると、遠野でも無声映画が上映されるようになります。「動いている写真」ということから活動写真と呼ばれ、「カッドウ」と親しまれました。スクリーンの脇には弁士が立ち、登場人物のセリフやストーリーを面白おかしく話します。さらに、場面ごとの効果音や音楽を数人で演奏する楽団もいました。

昭和10年(1935)頃には仲町(現・遠野郵便局)に「遠野公会館」が開設。公会館の収容人数は1,300人で、戦前は無声映画、戦後は本格的な映画の上映館として多くの観客を集めました。映画を上映しない日には、人気歌手の岡晴夫の歌謡ショーや踊りの公演のほか、町の芸能祭の会場となるなど大変にぎわいました。

しかし、昭和28年(1953)12月、火災により焼失。こ

の公会館が完成する前に吉野座は閉館していたため、一時期、映画の上映館は多賀座一館のみとなりました。

昭和29年以降は、仲町(現・日本生命保険会社)に「中央映画劇場(中劇)」、中央通り(吉野座の跡地)には「遠野ホール」、さらに昭和33年に新穀町(現・遠野歯科クリニック)に「遠野東映」がオープンし、遠野の映画の全盛期を迎えます。

中劇では、特に石原裕次郎の映画が人気を集め、遠野ホールでは「君の名は」などが大ヒットし、東映には美空ひばりなどのファンが詰めかけました。当時の映画館は入れ替え制ではなく、全席自由席で、上映本数も二〜三本立てが当たり前。開館中は入退場自由で、全盛期は通路や最後方で立見するほどでした。



遠野公会館

しかし、昭和39年(1964)の東京オリンピック開催を契機に、やがて庶民の娯楽の主役は映画からテレビへ。昭和30年代末に多賀座、昭和40年代前半に中劇と遠野ホール、昭和58年(1983)に東映が閉館。東映の最後の上映作品は、高倉健主演の「南極物語」でした。

時代や様式が変わっても必要とされる「庶民の娯楽」。腹を抱えて笑ったり、いつのまにか涙が頬を伝っていたり…映画にはいつも感動があります。

このテーマの情報をお持ちの方は遠野文化研究センターや遠野文化友の会までご連絡をお願いします。

★イベントのお知らせ

第38回全国地名研究者 遠野大会が開催されます

柳田國男と地名に関する基調講演や遠野の地名や峠などについての講演があります。詳しくは問い合わせください。

- ◆期日 6月15・16日(土・日)
- ◆参加料 2,000円(事前申し込みが必要です)
- ◆締切 5月31日(金)

★問い合わせ:遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介 Vol.13 遠野で起業に挑戦中!

平成28年から市と(株)ネクストコモンズが手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の起業・事業化に向けた活動の様子やイベント情報などをお伝えします。



1_遠増県知事、進行を務める岩手のアイドル「ふじボン」と2・3_組み立てた後、バンの中にそのまま入れて使用できる「バンハウス」。低コストで製作でき、移動しながらの仕事やレジャーにも使用できる

「いわて希望チャンネル」出演

3月26日、ビールプロジェクトの袴田大輔さんが、「いわて希望チャンネル」にゲスト出演しました。同チャンネルは、県が平成25年11月から始め、復興状況や取組み、豊かな魅力などを生放送で県内外そして国外に総合的に発信する動画。袴田さんは「遠野を世界一ビールが楽しめる街にしたい!」と活動の意気込みを語りました。また、遠野へ移住してきた袴田さんならではの視点で、岩手・遠野の魅力などを伝えました。

車中泊用の家「バンハウス」開発

超低コスト住宅プロジェクトの小関直さんが、車内に入れて使用する車中泊用の家「バンハウス」を開発しました。後部ハッチバックからそのまま入れられる大きさで、分解も簡単。出し入れが容易です。車内には折り畳み式の机や収納棚も完備。床にはタイヤカーペットを敷くなど工夫し、小さいながらも快適に過ごせるようになっています。現在は、知人を中心に同ハウスの使用感や快適性などの感想を集め、商品化に向け準備を進めています。

伊香学のチャタナーガNOW! Vol.12

米国チャタナーガ市との交流を、派遣職員・伊香がお伝えします!

異文化を伝え・知る

3月26日、テネシー大学チャタナーガ校の政治行政の授業にゲストスピーカーとして招待され、遠野や日本のことを伝えました。授業では、地理や統計、遠野の伝統料理など、様々な情報を紹介。遠野まつりの様子を動画で見せると、生徒たちは目を輝かせ、画面に夢

中! 遠野に興味を持ってもらうことができました。

4月2日は、「Flavors of the World」(チャタナーガ市姉妹都市協会主催)に参加。同イベントは、年1回行われ、参加者などが世界各国の料理を持ち寄り交流。私も同会員ら150人と料理を堪能し、遠野市を含む7つの姉妹都市の友好を願い、交流を深めました。



1_イベントでは米国らしいダンスパフォーマンスも2・3_緊張しましたが、遠野の魅力が伝えられました